

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 11月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300741		
法人名	医療法人 北原会		
事業所名	グループホーム大野		
所在地	広島県廿日市市大野67番地1 (電話) 0829-56-3333		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300741-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年11月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

- 当ホームの理念にある「家庭的な雰囲気作り」「常に笑顔で目配り傾聴」「地域に愛され信頼されるホームづくり」をキーワードとして、穏やかに暮らせるように取り組んでいます。
- 季節や行事に合わせた手作りの食事を提供しています。
- 個々の思いに寄り添い、趣味嗜好を取り入れ、豊かな生活が送れるように取り組んでいます。
- 経営母体が病院なので、訪問診療や緊急時の対応が速やかに出来るように24時間の応援体制が出来ています。
- コロナなどの感染症の発生状況に応じて、外出や季節の行事を計画して、楽しく快適な暮らしを提供出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

毎日の業務の始めに理念を唱和し、名札の中に理念カードを携帯して、常に利用者の気持ちを理解し、笑顔で家庭的な雰囲気の中で、過ごせるよう日々ケアの中で実践している。併設の医療機関の医師の訪問診療や看護師が常駐して毎日の利用者の体調や健康管理をしている。医療緊急時の対応マニュアルにより夜間帯や緊急の際など24時間医療協力体制を整備している。食材は業者からの納品で事業所の厨房で調理し、音や匂い、行事食等楽しみのある手作り食を提供している。行事やレクリエーションが事業所内でも出来るよう、職員の提案やアイデアが活かせる取り組みをしている。法人との協力体制を深めて、地域との交流が築けるよう検討している。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を、玄関と廊下に掲げ、始業前に唱和すると共に、全職員が名札の中に理念カードを携帯し、意識づけをしている。今後もその理念に照らし合わせ、日々の実践を行っていききたい。	事業所理念を目に付く場所に提示し、職員は名札の中に携帯している。朝の申し送り時に唱和し、意識づけしている。個々のスキルアップに向けての目標や個別に面談を行う等して理念に沿った支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で事業所自体も家族や地域との交流が難しい状況が続いているが、昨年11月に法人の協力医療機関主催の文化祭が開催でき、少しでも病院や当施設の様子を知ってもらい良い機会となった。今年も継続して参加し、地域密着型施設としての役割を担って行きたい。	コロナ禍で事業所独自で地域との交流が難しい中、昨年11月協力医療機関主催の「敬愛祭」を開催し、主催側の法人から開催の案内状や請求書の中に利用者の日頃の写真を同封し、郵送する等法人と共に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を地域に還元したい思いはあるが、実践に至っていない。そのため、相談時には、わかりやすく丁寧な対応をするように心がけている。今後は、交流の場を活用して少しでも地域に還元出来るように工夫をしていきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	以前は、コロナ禍で家族や市職員の出席が難しい時期もあったが、現在は会議への参加が可能になり、グループホーム内の取組み状況や困りごと・事故事例等の報告や意見交換をし、今後のサービスの向上に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は家族、大野支所健康福祉グループ、地域包括支援センター、理事長、法人関係者、事業所職員参加で開催している。利用者の現状、行事・研修・事故報告を行い、意見交換の場となっている。今後は地域住民が参加できる体制作りや広報誌の中に議事録や日頃の様子を記載し、情報発信を検討している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議やケア会議で市の担当者と情報収集、意見交換をする機会はあるが、それ以外にも電話などで情報交換、相談、助言をもらい、協力関係を構築している。	市主催の研修に参加することや市担当者に相談、地域包括支援センターと利用者相談や空き情報等情報交換を行い、意見を頂く等信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	何が身体拘束になるのか、なぜ身体拘束がいけないのか、研修や意見交換の場で全職員が理解を深め、入居者の人権を守るという視点で法人全体で取り組んでいる。施設の構造上施錠はしているが、状況に応じて柔軟に対応している。拘束が必要な場合には身体拘束適正化委員会にて協議をしている。	身体拘束に繋がらない取り組みや研修を通じて全職員が周知し、日頃の支援の中で気になる点や言葉使い等、職員間で注意、指導を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	何が虐待になるのか、基本に立ち返り、日々の業務にあたりと共に、研修や定期的に関係している権利擁護・虐待防止委員会で、高齢者虐待防止法に基づき意見交換をしている。会議で出た助言をもとに、身体的虐待だけでなく、言葉使いや態度にも注意を払うように職員一同努めている。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	引き続き、ケア会議や研修で学んだことや実際の事例を通じて、誰もが権利擁護や成年後見制度の理解と活用が出来、入居者の尊厳が保てるように努めていきたい。また、日頃から家族や関係者に情報提供をし、相談しやすい関係性を構築していく。	/	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、契約書や重要事項説明書を分かり易く説明をし、不安や疑問点が無いか尋ねながら契約の締結を行っている。また、入居してからも必要に応じて、契約の再確認をしたり、規約の改定等があれば、書面を作成、十分な説明をし、理解、納得をしてもらうように心がけている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の意見や要望は、話しやすい環境の場を設定し、全職員間で情報を共有し対応、検討をしている。運営推進会議や面会時に頂いた家族等の意見も運営に反映させている。また、玄関に目安箱を設置し、匿名でも自由に意見を出せるようにしており、外部の相談窓口も適宜、紹介している。	電話やケアプラン作成時、家族に手紙で意見を聞く欄を設けている。又、運営推進会議に参加の家族から対面での面会や目安箱に匿名でのレクリエーションの希望がある等意見が反映に活かせるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、会議や申し送りの場などで意見や提案を言える機会があり、個別対応もしている。管理者は提案された意見や要望をもとに今後の運営に反映させるようにしている。	申し送り時やリーダー会議に意見を聞く機会を設けている。利用者の安全性を考慮した自動ブレーキの車いすを購入し、意見が反映された例がある。他にも勤務体制等、日頃業務する中での提案や意見がいつでも話しやすい環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きがいのある職場作りのため、個々の意見を聞き、職場環境を整え、向上心を持って働けるように日々、工夫をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず先輩職員の指導をつけ、職員各人の力量を把握し、誰が関わっても質の高い介護が出来るように日々、努力を続けている。また、研修への参加や資格取得希望者には勤務を柔軟に対応し、研修で得た知識を還元出来るように研修報告書の作成や施設内で伝達研修をして共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や、地域ケア会議、資格更新研修などを通じて情報交換や意見交換で交流を深め、サービスの質の向上につながるように努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人の情報を全職員が把握し共有している。本人の入居時の不安な気持ちに寄り添い、少しでも早期に新たな住まいに慣れていくことが出来るように個別に職員が寄り添って話を聞くなど信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から困っている事、不安に思っていることや要望などを傾聴し、ねぎらいの言葉を添えて、話しやすい環境作りをしている。入居後も密に連絡を取り、本人、家族にとって必要なサービスが提供できるように、工夫し家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで相談された家族に、いろいろなサービスの選択肢があることを伝え、多職種とも連携して本人、家族にとってより良いサービスは何かを共に考え、必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、今、出来ていることを尊重し、寄り添い、見守りをしていき、関係性を深めていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで家族との関係性が薄れていかなないように密に連絡をとると共に一緒に本人の生活を支えていく視点を持つ。家族にしかできない役割を理解し協力できる関係性を築いていけるように努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で、外出や家族や知人との面会など交流の機会が減ったが、今後は感染状況を見ながら再開し、交流が途切れないように工夫をしていきたい。	他県より利用者の妹の面会や訪問美容、併設医療機関施設に移動ブティックの来訪があり職員と共に訪ねている。受診の際に家族と一緒に的外食等、交流が途切れないよう工夫しながら実践している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂兼談話室の席の配置を工夫し、時には職員が入居者の間に入り、会話を楽しめるように橋渡しをしている。入居者同士が関われる環境を多く作り出し、楽しみながら共同生活が営むことが出来るように今後も支援をしていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があって退去された家族に対しても、引き続き気軽に立ち寄れるように声かけをしたり、相談にも対応している。また、入院された場合は、家族と密な連絡をとり、必要に応じて病院職員とも情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で、本人の希望や思いを聞き出す工夫や、表情や行動から意向をくみ取るようにしている。時には、家族に在宅での様子を聞いて、本人の思いが把握できるように柔軟な対応をしている。	日頃の会話の中で希望や気づき、思っている事、表出の難しい利用者は本人の表情、筆談やコミュニケーションをしっかりと取り把握に努め、申し送りノートに記載し、看護師やリハビリ職員にも相談し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、家族や在宅時の担当介護支援専門員からの情報をもとに、本人の生活歴を考慮して、今までの生活様式を出来るだけ変えないように生活環境を整え、その人らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活歴をもとに、本人の一日の過ごし方を観察し、全職員で情報を共有している。また、本人の持っている力が十分に発揮できる暮らしを築くことが出来るように話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃より心身の状態の観察を行っているが、介護支援専門員を中心に、本人・家族・関係者に聞き取りをした上で、担当者会議を開催し、介護計画書を作成している。介護計画書は6ヶ月毎に更新、モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、状態に変化があった時は新たに介護計画書を作成している。</p>	<p>アセスメントや家族からも聞き取り、看護師に相談や、多職員の意見や提案を活かした介護計画を作成している。家族には郵送にて確認して頂き意見を貰っている。3ヶ月毎のモニタリングや6ヶ月毎に更新を行い、体調に変化があれば見直し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は個別ケース記録に記載、職員間で情報共有をしている。また、申し送りノートには医療情報や介護の変更点などを随時記載し、リーダー会議やケース検討会、介護計画書の見直しの資料として活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>日々の生活では大まかに一日のスケジュールはあるが、個別ケアを基本に受診の付き添いなど、その時々に合わせて柔軟にサービスの提供が出来るように心がけている。今後、地域資源・サービスの活用も視野に検討していきたい。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>在宅生活で培った地域とのつながりを継続しながら豊かな生活を送って欲しい思いを基本に、今後も協力医療機関との協働で地域との交流の機会を模索していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に本人・家族に在宅でのかかりつけ医で継続するか、協力医療機関をかかりつけ医にするか意向の確認をしている。途中での変更も可能。夜間や緊急時でも適切な医療が受けられるように、協力医療機関が柔軟に対応している。</p>	<p>契約時、かかりつけ医の説明を行い確認をしている。協力医療機関の医師が2週間に1回の訪問診療、常勤看護師による健康管理を行っている。専門医受診は家族対応であるが初回は看護師が同行支援をしている。医療連携体制が整い、夜間や緊急時等、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中での状態の変化や気づきはすぐに看護師につなげる関係性が出来ており、看護師は協力医療機関の医師に報告し早めの対策をとっている。看護師が不在時も24時間、電話連絡が出来、必要に応じて指示をもらい、協力医療機関の応援体制も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供し、安心して治療に専念出来るように病院関係者と密に情報交換をしている。また、本人・家族の不安感が少しでも軽減されるように病院に出向き、不安なことや今後についての相談にもものっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人・家族・主治医と重度化した場合の対応について話し合いの場を設けているが、実際に重度化したり急変時には、改めて意思確認を行っている。今後の治療に、本人・家族の意思が尊重されるように関係医療機関と協議し方針の共有をしている。	契約時、重度化や終末期について説明を行い確認をしている。重度化した場合、家族に今後の方針について医師による説明を行い、医療緊急時対応マニュアルを作成し看護師が医師に連絡し夜間帯の医療連携体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な応急処置や初期対応の訓練は行っていないが、今後は計画を立て実施できるようにする。急変時や事故発生時はグループホームの看護師に連絡がつき、協力医療機関の医師より具体的な指示を24時間得ることが出来、看護師との応援体制も出来ている。急変時や事故対応した時は、記録に残し、全職員が情報共有をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホームでの訓練は単独ではできていないが、年2回、協力医療機関との合同避難訓練を実施しており、マニュアルを提示すると共に、全職員・入居者の安全確保について認識を深めている。災害時にも協力医療機関の応援体制があり、食料品や飲料水の備蓄もしている。	年2回併設医療機関と合同で災害箇所を毎回特定し避難訓練を行い、医療機関との応援体制を整備している。事業所内で実際にレベル4の段階で山側の居室利用者のベットをホールに移動する水平移動や垂直移動を実施し、振り返りを行い良い点や反省点等記録し今後に活かす取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の入居者の人格や認知症の症状の違いを理解し、誇りを傷つけないよう言葉使いや対応に配慮をしている。特に、排泄介助や入浴などは、全職員が共有している情報をもとにプライバシーを損ねないような工夫をしている。	接遇について法人研修を実施し、報告をしている。日頃からトイレの戸を開けたままにしない、個別の声掛けや馴れ合いにならないよう言葉使い、不適切ケア等職員間で注意をしている。個人情報もカーテンで見えないように管理する等、人格やプライバシーを損ねないよう実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を気軽に話せるように、時には個別に居室で傾聴している。言葉では十分に意思疎通が難しい時は、本人の表情や日頃と違う言動や何気ない会話の中で、本人の思いをくみ取るような対応を心掛けている。状況に応じて、家族の協力を依頼することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の流れは決まっているが、体調や気分を把握して、本人の意向に沿った対応をしている。特に余暇の過ごし方は、個々の趣味・嗜好を取り入れて提供するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個性を大切にし、本人の好む服装や身だしなみ、おしゃれが出来るように、一緒に考え、支援をしている。訪問理容の利用時には、一緒に髪型についても話をするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内で調理をしているが、事前に食材のアレルギーの有無の確認と嗜好調査や日頃の食事摂取状況により献立の変更をしており、量や形態は入居者のその日の体調に合わせて調整をしている。調理や盛り付けは職員が行っているが、簡単な片付けやテーブル拭きなど手伝ってもらうことはある。	業者作成の献立材料を納入し、事業所厨房で調理している。献立に行事食が取り入れられているが時には献立変更を行い、アレンジした献立メニューや食べたい物を提供している。誕生日には誕生日カードにおやつを添えて祝う等、楽しむことのできる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日、食事量や水分補給の記録をつけており、必要に応じて協力医療機関の医師や管理栄養士に助言をもらい、間食や栄養補助食品を活用することもある。また、毎月の体重測定や定期的な検査で栄養状態の把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時と毎食後の口腔ケアを職員の誘導により行っている。一人での口腔ケアが難しい入居者には職員が見守り、声かけ、介助をしている。毎日、夕食後に義歯を預かり消毒をしている。必要に応じて、歯科受診も勧めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、特に食事の前後は、声かけや誘導を行っている。身体状況に応じて、ベッドサイドにポータブルトイレを設置し、自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録表に排便の時間や量を記録し個々のパターンを把握している。排便のない時は飲み物を提供したり、看護師に報告を行い医師に相談する等、不快な気持ちにならないよう支援している。日中はトイレでの排泄、夜間帯はポータブルトイレをベット横に設置し座位での排泄に繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄確認表を活用し、状況を適宜、看護師に報告・相談をしている。看護師は腹部の聴診や水分摂取量などを確認し、協力医療機関の医師に報告し、指示や助言をもらっている。また、水分を多く摂取出来るように各人の好みに合わせた飲み物を提供し、軽体操をするなど便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決まっているが，その日の心身の状態に合わせて，入浴日の変更を柔軟に行っている。体調不良などで入浴が出来ない時は、清拭や足浴などで対応している。</p>	<p>体調やその日の気分等を考慮し柔軟に対応している。冬場は脱衣所と浴室に温度差がないよう工夫している。個々にボディソープや入浴後の保湿剤塗布や水分補給等をしている。入浴拒否の強い利用者には職員を変えたり、声掛けに工夫をしながら個々にあった入浴支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの就寝時間、起床時間に合わせ、声かけ支援をしている。快適に眠ることが出来るように、衣類の調整、空調、照明にも配慮している。また、個々の状態に合わせて午睡も勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の薬袋に用法・用量・目的を記載して保管すると共に服薬状況をケース記録に記載している。追加の処方があった時などは、申し送りノートを活用して、理由や用法、副作用などの注意点を記入して全職員が情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣味や好きな事を把握し、ぬり絵、パズル、歌などに取り組んでもらうと同時に季節の行事を取り入れて変化のある生活支援を心がけている。また、広告を使ったゴミ箱作りや作品作りの準備などできる範囲で役割を持ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年は桜の時期に車窓からではあるが、季節の風景を楽しむことが出来た。しかし、まだまだ希望に沿って外出支援が出来ていない状況がある。今後、家族の協力も得て個別外出や紅葉狩りなどの企画も検討していきたい。	花見や紅葉狩り等、年2回の外出支援を行事計画に揚げ、家族の協力や外出できない利用者にも事業所内で楽しむ事ができるよう工夫しながら外出支援を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の状況や希望に則して、自己管理を支援したいが、管理が難しい入居者が増えてきている現状がある。そのため、家族に協力を依頼したり、職員が買い物支援をしている。外出の機会には自身でお金を使えるようにしたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて、電話の取次ぎや手紙の送付支援をしている。今年度中に、日常生活の様子や行事の写真を広報紙として発行し、家族に日々の生活を知ってもらい機会にしたいと考えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には、転倒防止と場所をわかりやすくする工夫をしたり、季節に合った飾りを取り入れて四季が感じられるようにしている。庭には、四季折々の花が楽しめる、明るく心地よい環境作りに努めている。また、空調設備・照明・カーテンで、室温・明るさや光の調整を行っている。	季節に合った飾り付けや利用者のできる事の特技で生けた生花を飾り、季節を感じられるよう工夫している。敬愛祭の作品展作品で院長賞作品の絵を展示している。車いすから椅子に移乗し体型が保てるよう足台の設置や掃除、換気、空調管理等、居心地よく過ごせるよう環境にも工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂兼談話室では、入居者同士の関係性に配慮して席の配置をしている。時には、テーブルごとに会話を楽しんだり、気の合った入居者同士で話が出来る場所を確保している。また、居室内で過ごす時間が多い入居者には、適宜、見守り・声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人・家族の希望により馴染みの家具やテレビ等を持ち込んだり、家族写真やポスターを貼って、それぞれが安心してくつろげる場所になるように工夫をしている。	居室はエアコン、ベット、カーテン等設置している。自宅で使い慣れた物や馴染みの物を持参している。テレビや遺影、衣装ケース、写真等思い思い居心地よく過ごせるよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共同スペースに設置した手すりの活用で転倒予防をするとともに、廊下に蹴立を提示したり、各居室前の表札付け、トイレ等の案内板を設けることで場所が分かりやすくなるように工夫をしている。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を、玄関と廊下に掲げ、始業前に唱和すると共に、全職員が名札の中に理念カードを携帯し、意識づけをしている。今後もその理念に照らし合わせ、日々の実践を行っていききたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で事業所自体も家族や地域との交流が難しい状況が続いているが、昨年11月に法人の協力医療機関主催の文化祭が開催でき、少しでも病院や当施設の様子を知ってもらい良い機会となった。今年も継続して参加し、地域密着型施設としての役割を担って行きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を地域に還元したい思いはあるが、実践に至っていない。そのため、相談時には、わかりやすく丁寧な対応をするように心がけている。今後は、交流の場を活用して少しでも地域に還元出来るように工夫をしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	以前は、コロナ禍で家族や市職員の出席が難しい時期もあったが、現在は会議への参加が可能になり、グループホーム内の取組み状況や困りごと・事件事例等の報告や意見交換をし、今後のサービスの向上に向けて取り組んでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議やケア会議で市の担当者と情報収集、意見交換をする機会はあるが、それ以外にも電話などで情報交換、相談、助言をもらい、協力関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	何が身体拘束になるのか、なぜ身体拘束がいけないのか、研修や意見交換の場で全職員が理解を深め、入居者の人権を守るという視点で法人全体で取り組んでいる。施設の構造上施錠はしているが、状況に応じて柔軟に対応している。拘束が必要な場合には身体拘束適正化委員会にて協議をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	何が虐待になるのか、基本に立ち返り、日々の業務にあたりと共に、研修や定期的に関催している権利擁護・虐待防止委員会で、高齢者虐待防止法に基づき意見交換をしている。会議で出た助言をもとに、身体的虐待だけでなく、言葉使いや態度にも注意を払うように職員一同努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	引き続き、ケア会議や研修で学んだことや実際の事例を通じて、誰もが権利擁護や成年後見制度の理解と活用が出来、入居者の尊厳が保てるように努めていきたい。また、日頃から家族や関係者に情報提供をし、相談しやすい関係性を構築していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、契約書や重要事項説明書を分かり易く説明をし、不安や疑問点が無いか尋ねながら契約の締結を行っている。また、入居してからも必要に応じて、契約の再確認をしたり、規約の改定等があれば、書面を作成、十分な説明をし、理解、納得をしてもらうように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の意見や要望は、話しやすい環境の場を設定し、全職員間で情報を共有し対応、検討をしている。運営推進会議や面会時に頂いた家族等の意見も運営に反映させている。また、玄関に目安箱を設置し、匿名でも自由に意見を出せるようにしており、外部の相談窓口も適宜、紹介している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、会議や申し送りの場などで意見や提案を言える機会があり、個別対応もしている。管理者は提案された意見や要望をもとに今後の運営に反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きがいのある職場作りのため、個々の意見を聞き、職場環境を整え、向上心を持って働けるように日々、工夫をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員には必ず先輩職員の指導をつけ、職員各人の力量を把握し、誰が関わっても質の高い介護が出来るように日々、努力を続けている。また、研修への参加や資格取得希望者には勤務を柔軟に対応し、研修で得た知識を還元出来るように研修報告書の作成や施設内で伝達研修をして共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や、地域ケア会議、資格更新研修などを通じて情報交換や意見交換で交流を深め、サービスの質の向上につながるように努力をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人の情報を全職員が把握し共有している。本人の入居時の不安な気持ちに寄り添い、少しでも早期に新たな住まいに慣れていくことが出来るように個別に職員が寄り添って話を聞くなど信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から困っている事、不安に思っていることや要望などを傾聴し、ねぎらいの言葉を添えて、話しやすい環境作りをしている。入居後も密に連絡を取り、本人、家族にとって必要なサービスが提供できるように、工夫し家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちで相談された家族に、いろいろなサービスの選択肢があることを伝え、多職種とも連携して本人、家族にとってより良いサービスは何かを共に考え、必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来ないことに注目するのではなく、今、出来ていることを尊重し、寄り添い、見守りをしていき、関係性を深めていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで家族との関係性が薄れていかなないように密に連絡をとると共に一緒に本人の生活を支えていく視点を持つ。家族にしかできない役割を理解し協力できる関係性を築いていけるように努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で、外出や家族や知人との面会など交流の機会が減ったが、今後は感染状況を見ながら再開し、交流が途切れないように工夫をしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂兼談話室の席の配置を工夫し、時には職員が入居者の間に入り、会話を楽しめるように橋渡しをしている。入居者同士が関われる環境を多く作り出し、楽しみながら共同生活が営むことが出来るように今後も支援をしていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があって退去された家族に対しても、引き続き気軽に立ち寄れるように声かけをしたり、相談にも対応している。また、入院された場合は、家族と密な連絡をとり、必要に応じて病院職員とも情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中で、本人の希望や思いを聞き出す工夫や、表情や行動から意向をくみ取るようにしている。時には、家族に在宅での様子を聞いて、本人の思いが把握できるように柔軟な対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、家族や在宅時の担当介護支援専門員からの情報をもとに、本人の生活歴を考慮して、今までの生活様式を出来るだけ変えないように生活環境を整え、その人らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活歴をもとに、本人の一日の過ごし方を観察し、全職員で情報を共有している。また、本人の持っている力が十分に発揮できる暮らしを築くことが出来るように話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃より心身の状態の観察を行っているが、介護支援専門員を中心に、本人・家族・関係者に聞き取りをした上で、担当者会議を開催し、介護計画書を作成している。介護計画書は6ヶ月毎に更新、モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、状態に変化があった時は新たに介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別ケース記録に記載、職員間で情報共有をしている。また、申し送りノートには医療情報や介護の変更点などを随時記載し、リーダー会議やケース検討会、介護計画書の見直しの資料として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の生活では大まかに一日のスケジュールはあるが、個別ケアを基本に受診の付き添いなど、その時々に合わせて柔軟にサービスの提供が出来るように心がけている。今後、地域資源・サービスの活用も視野に検討していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	在宅生活で培った地域とのつながりを継続しながら豊かな生活を送って欲しい思いを基本に、今後も協力医療機関との協働で地域との交流の機会を模索していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人・家族に在宅でのかかりつけ医で継続するか、協力医療機関をかかりつけ医にするか意向の確認をしている。途中での変更も可能。夜間や緊急時でも適切な医療が受けれるように、協力医療機関が柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中での状態の変化や気づきはすぐに看護師につなげる関係性が出来ており、看護師は協力医療機関の医師に報告し早めの対策をとっている。看護師が不在時も24時間、電話連絡が出来、必要に応じて指示をもらい、協力医療機関の応援体制も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供し、安心して治療に専念出来るように病院関係者と密に情報交換をしている。また、本人・家族の不安感が少しでも軽減されるように病院に出向き、不安なことや今後についての相談にもものっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人・家族・主治医と重度化した場合の対応について話し合いの場を設けているが、実際に重度したり急変時には、改めて意思確認を行っている。今後の治療に、本人・家族の意思が尊重されるように関係医療機関と協議し方針の共有をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な応急処置や初期対応の訓練は行っていないが、今後は計画を立て実施できるようにする。急変時や事故発生時はグループホームの看護師に連絡がつき、協力医療機関の医師より具体的な指示を24時間得ることが出来、看護師との応援体制も出来ている。急変時や事故対応した時は、記録に残し、全職員が情報共有をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホームでの訓練は単独ではできていないが、年2回、協力医療機関との合同避難訓練を実施しており、マニュアルを提示すると共に、全職員・入居者の安全確保について認識を深めている。災害時にも協力医療機関の応援体制があり、食料品や飲料水の備蓄もしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の入居者の人格や認知症の症状の違いを理解し、誇りを傷つけないように言葉使いや対応に配慮をしている。特に、排泄介助や入浴などは、全職員が共有している情報をもとにプライバシーを損ねないような工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を気軽に話せるようように、時には個別に居室で傾聴している。言葉では十分に意思疎通が難しい時は、本人の表情や日頃と違う言動や何気ない会話の中で、本人の思いをくみ取るような対応を心掛けている。状況に応じて、家族の協力を依頼することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の流れは決まっているが、体調や気分を把握して、本人の意向に沿った対応をしている。特に余暇の過ごし方は、個々の趣味・嗜好を取り入れて提供するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個性を大切に、本人の好む服装や身だしなみ、おしゃれが出来るように、一緒に考え、支援をしている。訪問理容の利用時には、一緒に髪型についても話をするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	施設内で調理をしているが、事前に食材のアレルギーの有無の確認と嗜好調査や日頃の食事摂取状況により献立の変更をしており、量や形態は入居者のその日の体調に合わせて調整をしている。調理や盛り付けは職員が行っているが、簡単な片付けやテーブル拭きなど手伝ってもらうことはある。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日、食事量や水分補給の記録をつけ ており、必要に応じて協力医療機関の医師 や管理栄養士に助言をもらい、間食や栄 養補助食品を活用することもある。ま た、毎月の体重測定や定期的な検査で栄 養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後の口腔ケアを職員の誘導 により行っている。一人での口腔ケアが 難しい入居者には職員が見守り、声か け、介助をしている。毎日、夕食後に義 歯を預かり消毒をしている。必要に応じ て、歯科受診も勧めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、特に食事 の前後は、声かけや誘導を行っている。 身体状況に応じて、ベッドサイドにポ ータブルトイレを設置し、自立に向けた支 援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄確認表を活用し、状況を適宜、看護 師に報告・相談をしている。看護師は腹 部の聴診や水分摂取量などを確認し、協 力医療機関の医師に報告し、指示や助言 をもらっている。また、水分を多く摂取 出来るように各人の好みに合わせた飲み 物を提供し、軽体操をするなど便秘予防 に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	基本的に入浴日は決まっているが、その 日の心身の状態に合わせ、入浴日の変更 を柔軟に行っている。体調不良などで入 浴が出来ない時は、清拭や足浴などで対 応している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの就寝時間、起床時間に合わせ、声かけ支援をしている。快適に眠ることが出来るように、衣類の調整、空調、照明にも配慮している。また、個々の状態に合わせて午睡も勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の薬袋に用法・用量・目的を記載して保管すると共に服薬状況をケース記録に記載している。追加の処方があった時などは、申し送りノートを活用して、理由や用法、副作用などの注意点を記入して全職員が情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣味や好きな事を把握し、ぬり絵、パズル、歌などに取り組んでもらうと同時に季節の行事を取り入れて変化のある生活支援を心がけている。また、広告を使ったゴミ箱作りや作品作りの準備などできる範囲で役割を持ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年は桜の時期に車窓からではあるが、季節の風景を楽しむことが出来た。しかし、まだまだ希望に沿って外出支援が出来ていない状況がある。今後、家族の協力も得て個別外出や紅葉狩りなどの企画も検討していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の状況や希望に則して、自己管理を支援したいが、管理が難しい入居者が増えている現状がある。そのため、家族に協力を依頼したり、職員が買い物支援をしている。外出の機会には自身でお金を使えるようにしたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて、電話の取次ぎや手紙の送付支援をしている。今年度中に、日常生活の様子や行事の写真を広報紙として発行し、家族に日々の生活を知ってもらう機会にしたいと考えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には、転倒防止と場所をわかりやすくする工夫をしたり、季節に合った飾りを取り入れて四季が感じられるようにしている。庭には、四季折々の花が楽しめ、明るく心地よい環境作りに努めている。また、空調設備・照明・カーテンで、室温・明るさや光の調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂兼談話室では、入居者同士の関係性に配慮して席の配置をしている。時には、テーブルごとに会話を楽しんだり、気の合った入居者同士で話が出来る場所を確保している。また、居室内で過ごす時間が多い入居者には、適宜、見守り・声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人・家族の希望により馴染の家具やテレビ等を持ち込んだり、家族写真やポスターを貼って、それぞれが安心してくつろげる場所になるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共同スペースに設置した手すりの活用で転倒予防をするとともに、廊下に蹴立を提示したり、各居室前の表札付け、トイレ等の案内板を設けることで場所が分かりやすくなるように工夫をしている。		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム大野

作成日 令和 6年 1月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との付き合いが十分に出来ていない。	①法人の病院と協議し、地域との関わり・交流がより広がる様に取り組んでいく。	①毎年、11月には病院主催の「敬愛祭」に参加することで、入居者・家族・地域の方と交流をして行くとともに、グループホームでの行事にも家族・地域の方が参加できる様にしていきたい。	令和5年11月1日 ～ 令和6年4月30日
2	3	運営推進会議を活かした取り組みが充分出来ていない。	①2カ月に1回開催される運営推進会議に家族や地域から参加しやすい体制作りをする。	①運営推進会議では、家族は勿論のこと、地域の民生委員など参加を促していきたい。	令和5年11月1日 ～ 令和6年4月30日
3	18	日常的な外出支援が充分出来ていない。	①年間2回の外出支援以外にも、日常的な散歩や外気浴等を行う。	①季節感を味わえるように天気の良い日には、散歩や外気浴を個別に行って行きたい。	令和5年11月1日 ～ 令和6年4月30日
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。